

# 加害の歴史を考える戦争パネル展



ハルビン郊外の平房に設置されていた731部隊（関東軍防疫給水部）の研究施設

## 開催日程

2022年

9月18日(日)～19日(月・祝) 10時～17時

## 会場

エル・おおさか 9階ギャラリー(大阪市中央区北浜東3-14)

Osaka Metro谷町線・京阪電鉄「天満橋駅」より西へ300m ※裏面の地図をご参照ください。

## 開催趣旨

戦後77年が経過した今、戦争体験者が減少してゆくなかで、戦争の記憶の風化が懸念されています。日本では原爆を含め、戦争の被害の側面が強調されてきましたが、旧日本軍が朝鮮半島、中国、東南アジアなどで行った加害の歴史を避けて通ることはできません。

**「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となる」**

ワイツゼッカー・元ドイツ大統領の1985年ドイツ連邦議会での演説より

大阪府保険医協会は医師の団体です。今回のパネル展では軍隊の加害性、医の倫理と命の尊さを考えていただく機会にしたいと思い、医師・医学者が関わった731部隊の解説パネルを中心に展示します。

主催：大阪府保険医協会 反核平和委員会

共催：大阪反核平和医療人の会

〒556-0021 大阪市浪速区幸町1-2-33 TEL：06-6568-7721（担当：高田）

# 展示内容

## 731部隊

日本陸軍は中国東北地方の平房(へいぼう)に731部隊を設置し、人体実験・細菌散布実験を繰り返して細菌兵器を開発。その兵器で国際法違反の細菌戦を展開し、中国人民に多大な被害を与えた。戦後、731部隊員は米国に実験データを渡し、全員が免責され、医学界に復帰した。

## 平頂山事件

満州事変の1年後、撫順炭鉱を抗日ゲリラが襲い、数人の犠牲者が出た。守備に失敗した日本軍は報復に平頂山地区の住民3000人を崖下の平地に追い立て、一斉機銃掃射を浴びせかけ、その遺体はガソリンがかけられて燃やされたうえ、ダイナマイトで崖を爆破して、土砂によって完全に隠蔽した。

## 毒ガス兵器

第2次世界大戦当時、毒ガス兵器の使用は国際法で禁止されていたにもかかわらず、日本軍は毒ガス兵器を大量に製造し、おもに中国戦線で使用した。敗戦時には70万発といわれる毒ガス弾が中国各地に廃棄され、今も人々に被害を与えている。

## 沖縄戦

戦時中は「国体護持」「本土決戦」のために捨て石にされた沖縄。マラリアの有病地への強制移住や軍の命令があったとも言われる「集団自決」などで多くの被害者が出た。さらには現在も米軍施設が多く残されている。今回は沖縄戦の実相を当時の新聞記事を元に振り返る。

## 登戸研究所

登戸研究所は、1939年に設立された陸軍の研究所で、本格的に生物兵器や風船爆弾、偽札などの研究開発をしたとされる。敗戦に伴って解散したが、その際、研究所に関する資料は焼却されるなどし、徹底的に破棄された。

## 戦後補償-ドイツと日本の違い-

終戦から80年近くが経とうとしている。日本の歴史認識や賠償問題はアジアの周辺各国から問われ続け、未だに解決の糸口が見えない。一方で、ドイツはかつて侵略した周辺各国との関係改善を果たしたとされる。両国の戦後補償の歩みを比較する。

## 会場地図

